様式３

# 会　　議　　録

□全部記録　　■要点記録

| | |
|---|---|
| **１　会　議　名** | 第１回姫路市国際戦略検討懇話会 |
| **２　開催日時** | 令和８年３月６日（金曜日）　１７時００分～１８時００分 |
| **３　開催場所** | 姫路商工会議所　５階　５０３会議室 |

**４　出席者又は欠席者名**

〔構成員〕

髙坂委員、手島委員、中農委員、福吉委員、夫馬委員

〔事務局〕

政策局：山本局長、山下市長室長

国際戦略課：篠原課長、柳田副理事、古川係長

観光経済局：村上文化国際課長、横田国際交流センター館長、丹波観光コンベンション室係長、石井産業振興課長

**５　傍聴の可否及び傍聴人数**　２人

**６　議題又は案件及び結論等**

・姫路市国際戦略の策定について

・姫路市の国際化の現状について

**７　会議の全部内容又は進行記録**

詳細については別紙参照

| | |
|---|---|
| | **１　開会** |
| 事務局 | 第１回姫路市国際戦略検討懇話会を開会する。 |
| | **２　挨拶** |
| 事務局 | 少子化、人口減少が加速するなかで、本市が持続的に発展していくためには、本市の新たな魅力や活力を創出し、世界から選ばれる「まち」になることが重要である。本市では今年度から国際戦略課を立ち上げるなど体制強化を図り、今後さらに、産業、観光、文化、教育など、様々な分野において国際化をより戦略的に推進していくため、本市の国際的な政策の指針として「国際戦略」を策定すべきであると考えている。<br>令和９年（2027 年）３月の策定に向けて、全５回の懇話会を開催する予定である。この懇話会では、本市の国際化の現状を総括し、それを踏まえて将来のビジョン、政策の方向性、今後の国際社会およびこの地域において本市が果たすべき役割などについて、様々な見地から幅広くご議論いただきたい。 |
| 事務局 | **３　委員紹介** |
| | **４　懇話会趣旨・スケジュール案** |
| 事務局 | 資料１（５ページ）説明 |
| | **５　座長選任** |
| | **６　協議**<br>**⑴ 姫路市国際戦略の策定について**<br>**⑵ 姫路市の国際化の現状について** |
| 事務局 | 資料１「第１回姫路市国際戦略検討懇話会会議資料」及び資料２「姫路市版地域の未来予測」説明 |
| 座長 | 今、姫路市が喫緊の課題と考えているのは、SWOT 分析の「弱み」である。まずはこの「弱み」の具体的な解決策や、社会実装に向けた取組を考える、あるいは５年後、10 年後の将来像から逆算して今やるべきことを考える、そこから視野を広げ、最終的に基本目標について協議するという順序で議論を進めたい。 |
| 委員 | ジェトロ神戸事務所の主な業務は兵庫県全域の企業の海外展開への支援であるが、近年は、企業の慢性的な人手不足に対応するため、外国人材の採用についても支援している。姫路市の「弱み」として、若手人材の流出や、多文化共生社会への理解不足などが挙げられているが、高度外国人材の定着については、自治体が多文化共生のための環境整備を進め、ジェトロと自治体の両輪で重点的に取り組んでいくべき課題である。 |
| 委員 | 国際戦略というテーマであるが、実は国内戦略も同様である。日本人が集まらないまちは、外国人にとっても魅力はない。自分の経営する専門学校でも、まずは日本人学生を獲得し、その日本人学生の活躍を見て、留学生が集まってくるという考え方で運営している。まちの戦略も同じで、日本企業や日本人をいかに姫路に集めることができるか、どのようにして姫路を魅力的なまちにしていくのかという戦略 |

| | |
|---|---|
| | が基本になると考える。<br>「強み」として世界遺産・姫路城が挙げられているが、私が 14 年前ベトナムに行った際にベトナムの若者に姫路城のポスターを見せたところ、口をそろえて「大阪城」と言われた。「強み」ではあるが、認知されていない。「強み」を活かしきれていないという現状も含めて、戦略を考えていかなければならない。 |
| 委員 | 私もインドネシアで「どこに住んでいるのか」と聞かれたとき、「姫路」と答えるが誰もわからない。「大阪から 1 時間である」と言えば「ああ、大阪」と理解される。姫路城をしっかりとアピールしていかなければならない。 |
| 委員 | 外国人と地域との接点は、観光と産業の二つである。姫路市のインバウンド観光における大きな課題は、通過型観光から滞在型観光への転換である。ただ、観光客が増えても在住人口は増えないため、人口減少対策という視点では、観光より産業の強化の方が重要である。<br>「ものづくり産業」は日本各地にあり、「ものづくり産業」の言葉だけでは姫路の独自性は示せない。国内外で「その産業と言えば姫路だ」と言われるブランドをつくりあげることができれば、多くの日本人と外国人が姫路に住みたいと考え、若者の流出が止まり、外国人との共生が進み、姫路の発展に繋がるのではないか。SWOT 分析の「弱み」の中で、特に産業面が弱いという印象である。 |
| 座長 | AI の分析によると、「姫路市がグローバル化を目指す背景」について４つに集約される。①人口減少・少子高齢化が加速する中、外国人労働者や留学生、移住者の受入を進めなければならない、②地域経済が縮小する中、海外市場を取り込んでいかなければならない、③インバウンドが拡大しており、地域と世界が直接つながる時代である、④都市ブランド力の強化が重要であり、姫路の魅力をしっかりと打ち出すべきである。以上を踏まえ、姫路市は、交流都市から「定着型国際都市」に変わっていくことが不可欠である。 |
| 事務局 | 現在、コンビニ等で多くの外国人の皆さんが働いている。外国人が「姫路市は暮らしやすい」「姫路市では安心して働ける」と感じられるような、外国人にも選ばれるまちを目指していかなければならない。住民に近い基礎自治体として、そういった視点が重要であると考える。 |
| 座長 | 多文化共生の観点から、今の姫路市における一番の弱みは何か。 |
| 委員 | 日本語を学ぶ場所が少ないと感じている。イーグレひめじの日本語講座は全 10 回で 3,000 円である。1 週間に 1 回であるが、それでは足りない。外国人はもっと日本人と交流したいと思っているが、日本語は非常に難しい。話すだけなら数年で話せるようになるが、こういった会議資料は難しくて頭が痛い。もう少し安価で、そしてより高い頻度で日本語を学べる場所が増えると良いと思う。 |
| 座長 | 日本工科大学校は、播磨地域のエッセンシャルワーカー（必要不可欠な労働者）として多数の外国人材を輩出しているが、姫路市に対してどのような要望を持っているのか。 |
| 委員 | 留学生が姫路市に来て最初にすることは市役所での転入手続きや金融機関での |

| | |
|---|---|
| | 口座の開設である。スタッフが同行するが、非常に手間がかかるなど、細かい課題はたくさんある。 |
| 委員 | 郵便局の口座は姫路市民になって３か月経過しないと開設することができない。口座がないと携帯電話回線の契約ができず、携帯電話なしで３か月過ごさなければならない。 |
| 座長 | ジェトロから見て姫路市はどんなイメージか。 |
| 委員 | ジェトロが相談を受ける姫路市の企業の多くは製造業であり、播磨臨海工業地帯を中心として、工業系の企業、特に製造業が非常に盛んな地域であるという印象である。 |
| 座長 | 将来性があると考えるか。 |
| 委員 | 県内では神戸市に次いで姫路市の企業からの相談が多く、非常にニーズがある地域であると考える。 |
| 座長 | ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点で、姫路は話題に上るのか？ |
| 委員 | 姫路市が話題になることはほとんどない。製鉄や企業の話は出ることはあるが、企業が頑張っているのであって、姫路の地域全体がその企業をバックアップしているような印象はない。<br>「今の住民にとって住みやすいまちをつくる」ことと、「もっと多くの方が住みたくなるまちをつくる」ことについては、それぞれ別々の視点での戦略が必要である。市役所だけが頑張っても受入体制は不十分であり、自治体が地元の企業や金融機関と一体感を持って受入体制を整える必要がある。<br>産業面では、今の播磨臨海工業地帯の優位性に甘んじてはいけない。日本各地の工業地帯で企業の撤退や海外移転、廃業が起きている。地元と自治体が一丸となって「この分野で生き残っていく」「市とブランドをつくっていく」ことを考えなければならない。 |
| 座長 | 自治体と企業が連携してブランド化に成功している例はあるか。 |
| 委員 | １番有名な例は北九州市である。北九州市は姫路市と同様に工業地帯があり鉄鋼のまちというイメージがあるが、洋上風力発電などカーボンニュートラルに力を入れ、市、産業界、金融機関、地域が「北九州の産業をどうつくっていくのか」ということについて同じビジョンを持っている。北九州市の GX（グリーン・トランスフォーメーション）は世界にも轟き始め、こうやってまちが生き残っていく。でも姫路はまだその路線に乗れていないと考える。 |
| 座長 | 35 ページの基本目標と基本方針について、もう一度考える必要がある。他都市との違いや独自性がない。「姫路を元気にしよう」「グローバル都市姫路として世界から選ばれるまちにしよう」と議論しようとする中で、今の基本目標（案）では姫路の強みが出てこない。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | 現在、留学生や海外人材は各地で争奪戦の様相を呈しており、韓国、台湾、中国なども同様である。少子化が加速する中、いかにして海外の人材を獲得していくかが重要である。かつての「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という時代ではないが、「ものづくりの国日本」というイメージは今も残っていて、整備やプログラミング、建築などを学びたい留学生が来ている。しかしそれがいつまで続くかは不透明だ。世界から選別される時代になっているという自覚をしっかり持ち、そのために何をするか具体的に詰めていく必要がある。行政が構想をつくって終わりというパターンにならないよう、実効性のあるものにしなければならない。 |
| 座長 | 現場では、日本語を学ぶ機会を充実させることのほかに、どういった課題があるか。 |
| 委員 | インドネシア人は、姫路で１～２年働くと、より高い給料を求めて都市部に引っ越すことが多い。30 年後、介護施設にとって外国人材が不可欠になっていても、低い給料では人材が定着しない。 |
| 座長 | ジェトロから見て、これから姫路の産業を発展させてくために必要なものは何か。何があれば姫路の強みになるのか。 |
| 委員 | 地方では、やはり人手不足が深刻であると感じている。人材がいなければ地元企業は仕事を取ることができない。海外に市場を開拓するためには、グローバル人材が不可欠である。事業を継続していくためには、外国人材の受入の拡大と、国内での人材育成を両輪で進めていかなければならない。 |
| 座長 | 「８がけ社会（2040 年頃、労働人口が現在の約８割になっている社会）」において、姫路市のような地方中核都市の役割は何か。 |
| 委員 | 今、地方への注目が高まっている。廃棄物や環境負荷低減の観点から、一極集中でものづくりをするということができなくなり、東京の企業は進出先やサプライチェーン上での協業先企業を模索している。これは地方の中核都市にとって大きなチャンスである。姫路市は他の中核都市よりも目立たなければ淘汰される。東京で「今、どこの地域が盛り上がっているのか」と具体的に聞かれたときに、すぐに「姫路市」と言えるよう、国内外におけるブランド力を高める必要がある。「この分野で１番」があって、はじめて国際都市の１番になれる。１つの分野で１番になれば、自ずと外国人が集まり、受入体制を整えることで、まちは発展していく。現状では、「姫路」の共通認識は、姫路城しかない。 |
| 座長 | できることからどんどん進めて「社会実装」まで持っていかないと意味がない。 |
| 委員 | 「強み」である世界遺産・姫路城を活かしきれていないし敬意も払っていない。大手前通りには十数階建のマンションが建設され、屋上には多くの看板が設置され、姫路城を撮影すると信号が映り込む状況である。新幹線で姫路駅に入っていくと姫路城が一望できるような景観づくりを進めていかなければならないし、できることはたくさんある。<br>野里街道地区は姫路城周辺景観形成地域として姫路市が指定しているが、残すべき歴史的建物が壊され、現代風のアパートが建てられている。沖縄の首里城周辺の |

| | |
|---|---|
| | 建物の屋根がすべて赤瓦で統一されているように、姫路市にも徹底した本気度が必要である。かつて姫路市は鉄鋼業で栄えていたが、今は姫路城に頼らざるを得ない状況であるにもかかわらず、姫路城を活かした本気のまちづくりができていない。海外どころか国内でも印象が薄く、東京で「姫路市から来た」と言っても「岡山県か」「愛媛県にあるのか」と言われることがある。 |
| 座長 | 今、パラダイムシフトが求められている。従来の発想では駄目だ。大事なものを残しつつ、新しい価値をつくっていかなければならない。<br><br>**５　閉会**<br>第１回姫路市国際戦略検討懇話会を閉会する。 |